

五河 士道の無限使い

EX BOX

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

簡単に説明すると

藩の目的は崇宮真士 を生き返らせて

二度と手放さないように士道がコンプリート状態にして
死なせないようにするのが目的だった。

でも崇宮真士 の体を復元した所で似た別の何かであり

死人は甦らなかつたのだが、もしも

士道が頭をぶつけ前世が崇宮真士でありその前の前世まで思い出したら、それがもしもオリ主だったらの

もしものお話です。

目次

一話もしも | 1

原作と明らかに違う点（ネタバレ解説）

11

第2話一方その頃 | 16

一話もしも

この世にはもしもと言う平行世界が存在する。

何故俺がこんな話をするかと言うと

俺がもしも見たいな存在になつてゐるからだ。

そう例えばこの作品が転生者だったり

生まれ変わりだったりと色々あるけど

何故その話をするか俺は転生者だからだ。

4月10日の朝 俺が寝てる時に妹が俺のお腹にダイブ

してきてリズムカムにサンバで俺を踏みつけてきたのだ。

まああんな起こされ方されたからちよつとウイルスネタでからかったけど

そして俺は自分の部屋から出て朝食をするため

一階のリビングへと降りようと階段から

下ろうとした時

寝ぼけて段を踏み外したのだ。

「!!」

やべえ!!とドキツとし目が完全に覚めたが

さつき起きたばかりだから体に力が入らなくて

階段から転び落ちた

そのさいに俺は頭を打ってしまい気を失うのだが
そこから俺の物語りが始まったのだった。

大きな音が家中に響き

妹は階段から聞こえたのもしやと思ひ

急いで駆けつけ

一階で頭から血を流して気を失ってるお兄ちゃんがいたのだ。

大好きな兄が急に大ケガを負って私は

「お兄ちゃん!!どうしたの!!その怪我お兄ちゃん」

と声をかけるが

兄「…」

妹「こうなったら」

妹は自身の髪につけている白いリボンを黒に変えて

携帯を出して電話を始めた

妹「神無月!!計画変更よ土道が階段から滑り落ちて

怪我をしたの今私がかマエルを発動させないように

してるわこのまま直で秘密結社ラタトスクにへと連れてくから土道の学校に連絡し

といてくれるかしら…分かったわそれじゃまたあとで」

そう言い電話を切り

再び兄を見た。

「観測によつて精霊がくるの分かつてたから士道を空間震から避難させたあとラタトスクにつれてく予定だったけど兄が今こうなつてるならこつちの方が都合がいいからラタトスクに着いたあとすまないけど兄にはやつてもらうしかないわね。」

こうして二人は空中戦艦により回収され

士道はラタトスクの治療室のベッドへと

運ばれていた。

そして妹は兄を見送つたあと

心の中では兄にこんな期待をしていた。

(あの日私を見捨てないで助けた優しいお兄ちゃんなら精霊の皆を見捨てないよね)

そのとき妹は知らないでいた。

確かに原作の土道なら安易に受けるだろうが

あの時階段から落ちた時頭を打った時、土道に変化があつたことを

∴∴

ドカーン

???
「!!」

突如としてこのラタトスクの艦内に大きな

爆発音がしたのだ。

そして目の前に黒服の人が駆け抜けて来て

モブ「大変です指令さっきの爆発音の場所は土道がいる
医務室です。」

??? 「何ですって!!」

私はお兄ちゃんの所へ急いで駆けつけたんだけど

「!!」

医務室には

大きく壁が壊れ外が丸見えになっていて
兄がいなくなっていた。

精霊は観測されてなかったし

そもそもここは上空1万mにあるのだ

外部からの攻撃は受けないし

簡単に壊れるような作りではないし

考えるとしたら

指令「まさかこれは士道がやったの?」

士道と私のパスが流れてるならば

無意識にカマエルの能力を使ったのかも知れないと

考えた。

だが精霊の力は観測されてないし

士道は寝てるし第1にカマエルのパスは今

私が押さえてるから使えないはずなの

消えた兄と艦内に空いた穴の

謎を考えてるのだが

モブ「指令!!精霊が観測されました。そして何ですが何故かそこに士道がいました。」

指令「なんですって?!すぐに士道をここに避難させるのよ。」

……

指令「何してるの!!早くしなさい。」

モブ「それが……今さつき二人は急に消えたそうです」

指令「はい!?どゆこと!!」

……

精霊「貴様おかしな能力を使つて私をこんな所に連れてきて何をするつもりなのだ。あのメカメカ団と同じく私を殺そうとするのか?」

士道「違う!!俺はお前を助けに来たんだ。」

精霊「どうせ嘘なんだろメカメカ団が言つてたんだ

私は存在するだけで害悪なんだってだから貴様も

私を否定するのだろう」

士道「俺はお前を否定しない!!」

精霊「なに!!」

士道「言つただろ俺はお前を助けに来たんだって俺は

お前を純粹に助けたいと思ったから助けたんだ。」

精霊「…… 本当にか？」

士道「本当だ。」

精霊「本当の本当の本当にか？」

士道「本当の本当の本当だ!!」

……

精霊「ふーんだ／＼／＼どうせ嘘だもん……。でもどうしてもって言うなら守って貰おうじゃないか／＼／＼。」

士道「ああ!! 守って見せる。だからここから俺を見ていな。」

そう言い士道は学校の三階の窓から飛び出し空へと飛んで言ったのだった。

そしてその場に一人取り残された精霊は士道を見て

精霊「あやつも我と同類じゃないのか？」
人間なのか？と疑っていた。

…
…
…

原作と明らかに違う点（ネタバレ解説）

主人公

五河 士道

原作の本編ではあり得なかった本当の高宮慎二の生まれ変わりであり高宮慎二の正体は三次元の人間いわゆる

神様転生された人間であった。

転生のさいに士道に生まれ変わらせようとしたんだけど

何故か転生するための機械が転生の最中にバグちゃって

間違つて高宮慎二に生まれ変わってしまった。

この際に記憶は全て失くなっており特典で貰った五条先生の能力に関してはMP使用にされたため使えなく普通の人と変わらなかったが、士道へと生まれ変わったと同時に精霊の力により呪力が使えるようになった。

高宮 滯（ヒロイン）

アイザック達により

すごーい空間震を引き起こしたと同時に

高宮 滯Ⅱ（むらさめ・れいね）が誕生した。

原作と違う点といえば生存しなおかつ主人公と結ばれる
ってくらいかな。

妹の真那に関しては原作通りである。

十香

原作と同じだが結ばれる予定かは未定。

折紙

偶然だが士道は妹を何とかしたあと

運命のいたずらか折紙と偶然出会い一時的にパスが

繋がったことにより偶然だが五条の能力を使い

両親を救うことになる。

両親はコロサレテないので精霊を恨んではないが

その代わり折紙は二重人格になっている。

通常の折紙はロング折紙なのだが

士道と鉢合わせると短髪折紙に変わる。

二人が登場する
このデアラ世界には「裏ボスとして降臨したいもーん!!」という世界と繋がっており

クズロット「裏ボスとして降臨したいもーん!!」より

デアラの世界に本来いないはずのドラゴンボールmad

キャラの人物である

何を企んでるか不明

セレナ・カデンツァヴナ・イヴ「裏ボスとして降臨したいもーん!!」より

シンフォギアGのキャラであり冒頭というか回想と

いうかまあ…本来なら死んでるのだが

ジョジョの奇妙な冒険で出てくるスタンド能力を
何故か持っており生きている。

悪質転生集団

クズロットにより転生された悪い人達

本来なら地獄の亡者なのだが地獄に踏み入れており
何千人の魂をかつかれており

他には悪霊や地縛霊や幽霊スポットに訪れており
強制的に転生させている。

アイザック・ウエストコット

生まれながらのサイコパスであり偽善者でもある。

原作で二回に渡り最終決戦をし

一回目は士道により敗北し

二回目に瀦により相討ちとなった。

この世界ではクズロットの助言により

最初から反転能力で勝負を挑み

なおかつクズロットの能力を一部貰ってる模様

いざよい美九

小学〜中学の頃の土道はアイドルイベントで何回か出会っており偽のスキャンダルが出たさいに

土道はスキャンダルではなくアイドルの美九の方を信じ

TwitterなどSNSで呼びかけアイドル応援活動などやっていた。

なおスキャンダルを出した会社は

世間から信用を無くし他国の国からコネを貰おうとするが他のマスコミ会社から狙われてしまい

破産することになる。

第2話 一方その頃

ラタトスク空中艦フランクシナス

精霊を殲滅することが目的の

A S T部隊（公務員）とは異なり

ここは精霊を保護することが目的の対反する

組織である。

そして今フランクシナスでは土道と及び精霊を監視カメラでモニターに写し探していた。

司令「急いで探すのよ土道はたぶんだけど精霊（別名プリンス）といるはずよ。だから霊力を感じすれば見つけられるはずよ。

オペレーター達（了解です）

こうして土道を探す為為にプリンスの特定を頑張ったのだった。

そして1人の男が何か気づき言葉を発したのだった。

神無月「司令これは!!」

司令「プリンス及び士道を見つけたの？」

神無月「……」

何故か黙りこみ私はまさか最悪な展開になったのかと顔を青ざけていた。

神無月「安心してください二人とも見つけましたしどちらも無事です。」

そういい私は「フウ」と息を吐き心を落ち着かせたあと何故神無月は黙り混んだのか問い詰めたのだった。

指令「神無月？ だったら何故黙り混んでるわけ？」

特に何もなければなら普通にいえばいいじゃない。」

明らかに様子がおかしい神無月に皆が向き

神無月は自分が今明らかに注目されてるなど気付き

喋るのだが

「そ…それは…」

「……」

一言喋ればまた黙り私はそれに明らかにムカついたので

神無月「ぐへえ」

私は神無月にドロップキックをし

お腹にふんずけるのだった。

ドストドスト「早く喋ろロリ豚」ドストドスト「いつもは私にセクハラ紛いで普通に喋ってるんだから」ドストドスト「いつも見たいに喋りなさいよ」ドストドスト。

こうしてロリコン変態やろうにお仕置きしていると

神無月「いやー指令に踏まれるの最高ですし、お！

指令のパンツは熊ちゃんマークの白パンでしたか私のロリ性癖にマッチグーですよ。」

普段なら喋ってる間に追撃とばかりに止めの一撃をあたえるのだけ。貴重な情報を持つので今だけはスルーすることにした。今だけはだけ。

そして神無月は起き上がりやっと思える気になった。

「分かりました。では信じられない話なので躊躇ってましたが「そんなことはいいのよさっさと見え」はい。」

「土道君は今、変装をしてASTと交戦しています。」

指令「は!？」

私は思わず声が出た為に口を大きく開けてしまいチュツパチャプスを床に（コロン…）と落としてしまうのだった。

ある場所で一人の男性とたぐさんの集団と

それを遠くから見守る精霊がいた。

後にその精霊は十香と名になるのだがそれはちよつと先である。どうやって見守る
|| 監視をしているのかと言うと

霊力とASTの魔力により十香は感知しているのである。

そして今の土道は守るという約束を守るため

一時的に相手を退かせようとAST集団と混戦をしているのであった。